

## 様式第2（第5条関係）

### 令和2・3年度期第6回犬山市青少年問題協議会・犬山市青少年センター 運営協議会 会議録

1 附属機関の名称 犬山市青少年問題協議会及び犬山市青少年センター運営協議会

2 開催日時 令和3年4月22日(木)午前10時～午前11時40分

3 開催場所 犬山市役所 201会議室

4 出席者した者の氏名

(1) 委員：佐々由高、板津克哉、松本里美、松井淳司、畑竜介、渡辺孝春、田島奈生美、  
深見公子、近藤友貴、沖藤妙子、南谷亜紀（11名／11名中）

(2) 執行機関：文化スポーツ課課長山本直美、同課長補佐星野弘之、同課青少年センター  
一所长梅村淳、同所相談員角村利恵

#### 5 議題

(1) 令和3年度の委員・事務局について

(2) 第5回犬山市青少年健全育成市民会議の報告

(3) 研修会「いのちと性を考える」の感想・意見交換

講師 助産師 愛智律子氏「小中高校生に伝えたいこと-いのちと性を考える」

(4) 犬山市青少年健全育成市民会議総会について

(5) おあしす運動の実施について

(6) 令和2・3年度の活動のまとめと今後の研修について

(7) 3分間スピーチ

(8) 連絡・報告事項

6 傍聴人の数 0人

#### 7 内容

(1) 会長あいさつ

・コロナ感染症が広がっている。対策をとって活動をお願いしたい。ワクチン接種も予定が示され始めた。接種が行き渡るまで、今しばらく対策に留意してほしい。

(2) 報告事項

①令和3年度 委員・事務局について

それぞれの委員・事務局は継続で、任期は令和4年4月30日までである。

事務局は、新しく星野補佐、青少年センター所長梅村が担当となった。

②第5回犬山市青少年健全育成市民会議の報告について

別添会議録を基に渡辺委員が報告した。主な内容は、令和3年度総会の開催について、会報「おあしす」40号について、令和3年度標語募集のテーマ「気持ちが明るくなるような標語」についてなどである。

(3) 協議

①研修会「いのちと性を考える」感想・意見交換

・「命の大切さを子どもたちに伝えること」、「性の多様性(LGBT等)についての理解」「男女交際、性教育の観点」、「その他」の4つの観点から、各委員の思うところを述べ、交流した。

・まず、「命の大切さ」をどのように子どもたちに伝えるのか。そして、性の多様性は無限であることを伝えたい。次に、性や「避妊」といった内容は、これまでも長くタブー視されてきた。どのように伝えていくべきか。について課題提起がなされた。

・子どもたちへの「伝え方」が難しい。マイナスイメージを与える伝え方は避けたい。LGBTや福祉の視点からも、個々の違いを自然に認められるように伝えていきたい。学校現場では、「使える言葉の制限」もあるだろう。伝える場も考えたい。

- ・子どもたちはネットの情報を優先してしまう。正しい知識にたどり着けていないことも多いだろう。降雨型情報社会と言われている。大人が正しい知識を伝える前に、多くの情報を手に入れていることは容易に想像できる。情報選択の能力も重視される。
- ・知識を伝えることは大切だが、知識だけ与えるのでは駄目。自分事として捉えさせたい。個に落とし込んで考えさせたい。
- ・研修会の内容にあったように、伝え方のプログラムは、いくつも準備されている。私たち大人がそれを知り、若者と一緒に学ぶ姿勢が必要である。
- ・身近に、同性のカップルに育てられている子がいる。もちろん健全に育っている。その家族を「普通」として受け入れられるようにしたい。
- ・中学校で新しい制服の制度が導入され、子どもたちは「選べる自由」を感じている。セーラー服や学生服を着たかった、という子は周りに流されていることもあるようだ。
- ・若者が「妊娠」した時、子育てを見通し、覚悟がもてるなら若くても良いと思う。経済的基盤、周りからの人的支援など、見通しのための情報が得られる相談機関の必要性を感じる。
- ・自分の命を大切にしようと思う気持ちは「充足感」であろう。自分が尊重される存在だと感じる事だと思ふ。家庭や学校で、自分の声を聞いてもらえる経験、だれかが見ていてくれる安心感などが積み重なって、作り上げられていくのではないか。
- ・学校現場(中学校)で「命の教育」に取り組んでいたことがある。受精の確率はとても低く、まさに誕生は「奇跡」である。そこから、自分・言いかえれば「命」を大切にしよう、自分を肯定的に捉えよう、という取組をした。妊娠・出産を考えたとき、今度は「自分」ではなく、「我が子」の命に目を向かせたい。自分が大事にされたように、我が子を大事にできるかを考えさせたい。「命を大切にする」ことが「多様性」を受け入れる下地となっている。
  - ・発達段階から、幼少期が「All OK」で過ごしてくる時期だと思ふ。何をしても最後は許してもらえ、という安心感が、自己肯定を育み、やがて保育園や小学校で社会性の伸長を邪魔する枝葉が切られていくと思っている。幼少期家庭での「安心感・肯定感」のもてなかった子は、入園・入学後が心配である。

## ②犬山市青少年健全育成市民会議総会について

本協議会の提言の下に設置された青少年健全育成市民会議の総会が、令和3年5月25日(火)10:00より、南部公民館 講堂で開催される。

・本会からの出席者：佐々会長、板津委員、畑委員、田島委員、松本委員、沖藤委員の6名

## ③おあしす運動の実施について

青少年健全育成市民会議の行うおあしす運動について、本協議会からも参加してほしい旨事務局からお願いした。

## ④令和2.3年度の活動の

まとめと今後の研修について

・これまでの会議・研修内容を振り返って話を進めるべきである。事務局で資料をとりまとめ、次回提示、協議する。

## (4) 3分間スピーチ

畑委員(犬山市議会議員)がスピーチを行った。

・20年間、通信業界にいた。その経験から。青少年の悩みやトラブルは、ほぼスマホ、ネットと紐付いている。「デジタルネイティブ」と呼ばれる年代も第2世代、つまり「生まれたときからデジタル通信機器が身近にある」世代に入り、スマホ、ネットは「当たり前」の子ばかりになっている。そんな時代に、「スマホは危険だか

ら使わせない」と言っていることはナンセンスである。生まれたときから、スマホが身近にあるのだから、親の管理下で「どう使わせるか」をスタートさせることが求められている。日々変化していくツールである。便利且つ安全に使えるようにしていきたい。

## 8 その他

- (1) 次回の3分間スピーチについて (渡辺委員)
- (2) 本会議の青少年健全育成市民会議での報告者について (渡辺委員)
- (3) その他
- (4) 本会議の次回開催予定日は6月28日(月)午前10時からである。会場等は追って通知する。

令和3年4月 日

上記に相違ないことを確認する。

(署名)

(署名)